



イガラシ綜業株式会社

イガラシ綜業株式会社 代表取締役社長 五十嵐 則夫氏

本社 茨城県日立市幸町2-8-6
設立 1979年4月
社員数 2025年2月1日現在 123名
(グループ全体)
事業概要 電気工事、管工事、電気通信工事、
消防施設工事、自然エネルギー発電、
プラント工事



イガラシ綜業株式会社
代表取締役社長
五十嵐 則夫氏

筑波総研株式会社
代表取締役社長
木村 伊知郎

株式会社筑波銀行
日立支店長
小國 健二

次世代を担うトータルエンジニアリング企業 を目指して、新たな挑戦へ。



事業内容について語る五十嵐社長



インタビュー日/2025年1月15日
(聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎)
取引支店：株式会社筑波銀行 日立支店

電気工事から事業分野を拡大 活動範囲も東日本全域へ

1951年に創業された当初、イガラシ綜業さんは
電気工事を手掛けていたそうですね。

当社は1951年の創業以来、皆様のご愛顧に支えられ、電気工事の分野を中心に成長を続けてきました。その後展開した管工事、消防設備点検、情報通信関連工事が主力事業にまで発展しました。さらに1997年より先駆的に取り組んできた太陽光発電などの新規事業が軌道に乗った今、当社ではこれまで培ってきた技術や実績を総動員し、次世代を担うトータルエンジニアリング企業を目指して新たな挑戦を始めています。

また、多岐にわたる事業で、活動範囲も広がってい

ます。茨城県内はもとより、東京、埼玉、栃木、福島、新潟、そして青森へと広がり、今や舞台は東日本全域に拡大しています。

太陽光発電のパイオニアとして 新エネルギー分野の開発にも注力

現在取り組まれている電気工事、管工事、電気通信工事、消防施設工事、自然エネルギー発電、プラント工事の中で、主たる工事は何でしょうか。その中でもどのようなものが多いのでしょうか？

管工事や消防設備工事などの受注も増えてきていますが、現在も電気工事や電気通信工事が事業の中心です。受注の内訳は官公庁が7割で、民間が3割程



電気工事



管工事



電気通信工事



消防設備工事

度です。電気工事については、以前は新エネルギー発電に関する工事が多かったのですが、最近では高速道路に関する工事の割合が増えてきています。

しかしながら、日本で初めて商業用の太陽光発電を手掛けた実績を持っていることから、太陽光発電システムに関して、現在でも多数お問い合わせをいただいています。

今後はエネルギーミックス全般を事業対象に、特に太陽光発電のパイオニアとして、長年蓄積してきた技術力、ノウハウを生かし、さまざまな新しい自然エネルギー分野の開発にも力を入れていきたいと考えています。

重要インフラを守る 社会的意義の大きい仕事

創業当初からの主力業務である電気工事業においては、特に高速道路に関する工事が多いとのことですが、SA・PA・道路・トンネル・料金所などの施設で、どのような設備工事が多いのでしょうか？

高速道路については、約40年前から保全工事を担当しており、三郷から仙台の手前までの約330kmが当社の担当区間となります。毎日、担当区間を分けて活動しています。このように毎日、高速道路上で発生する問題に取り組んでいるからこそ、高速道路に関する電気工事が得意分野となっています。現在はトンネル照明のLED化工事などが受注の中心です。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の際には緊

急出動し、24時間対応で約2週間にわたり電気設備の復旧、メンテナンスにあたりました。高速道路は重要な社会インフラですから、私たちの担う工事やメンテナンスの社会的意義も大変大きいものがありますので、今後も継続していきたいと考えています。

4種類のISO取得は信頼の源 社員の向上心アップにも寄与

イガラシ綜業さんは、国際規格といわれるISOを4つ取得されています。ISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO27001(情報セキュリティ)、ISO45001(労働安全衛生)の4つですが、どのような経緯で取得されたのでしょうか？

工事を施工するにあたっては、より良い品質の材料を重視するのは当然ですし、工事完了後に発生する廃材の処分も、環境に配慮して適切に行わなければならないことから、ISO9001とISO14001を取得しました。また、施工するにあたっては、顧客情報の流出や漏洩リスクを防止するため、機密性、完全性、可用性を維持し当社の情報セキュリティが担保されていることが必須となりますので、ISO27001を取得することは自然の流れでした。さらに、当社は建設業でもあり、労働者の安全と健康の確保、快適な職場づくりをしなくてはいけないとの思いから、ISO45001も取得したのです。

そういったことから、現在4つのISOを取得していますが、品質、環境、情報セキュリティ、労働安全衛生の4つのマネジメントシステムを1つのマニュアルで運用



自然エネルギー発電



プラント工事

している当社のオリジナルのスタイルは、全国でも珍しく、業界では「イガラシモデル」と呼ばれており、他社との優位性を図っています。

ISO 認証は社員にも良い影響を与えています。ISO 認証を受けることで、技術的な研鑽だけでなく社内的にも対外的にも責任や自覚を持つことができ、社員の向上心や普段の意識を高めることにもつながっています。

資格取得を全面バックアップ キャリアアップの基準を明確化

イガラシ綜業さんでは働きがい向上させるため、キャリアパス制度を導入されているとのことですが、制度の内容についてお聞かせいただけますか？

キャリアパス制度とは、入社時からの教育体制と、取得すべき資格や受講する講習などを施工職・技術職・事務職の職種ごとに段階的に定め、昇格に必要な基準を明確化したものです。

何年目にはこの資格を目指すという目標を会社が示すことで、個人のモチベーションが必然的に上がります。また、資格取得についても社内で勉強会を開催するほか、外部講師を招いて試験対策を行うなど、バックアップ体制も万全です。

当社のキャリアパスには、入社10年でマネージャーを目指すという基本的なキャリアケースがあります。そのことを社員に分かりやすく説明するために、わたしはよく「建築でも土木でも電気でもいいから、10年後に1

つは1級の資格を取得してほしい」と言っています。

昇格の基準を明確にするというのは非常に大事なことだと思います。同期入社で給料が1,000円違っただけでも大騒ぎになります。社員全員が納得し、努力している方が報われる仕組みを作っておくことが大切だと感じています。

社員の約30%を占める女性が 職種を問わず活躍

イガラシ綜業さんでは社員の30%が女性と聞いています。業種柄30%というのは多いと思いますが、どのような職種に就いておられるのですか。また、女性が働きやすい制度などがあるのでしょうか？

当社は社員の約30%が女性で、さまざまな場面で活躍しています。建設業で女性社員の割合が30%を占めている会社は大変めずらしく、県内でも当社くらいではないでしょうか。結婚や出産後も長く勤め続けてほしいので、産休・育休制度など働きやすい環境の拡充を進めています。

職種は事務職を中心として、施工職として現場に出ている方や技術職として設計業務に携わる方もいます。設計部は実に人員の7割を女性が占めています。また、今年には当社初の女性現場代理人が誕生しました。実力もついてきていますので、今から活躍が楽しみです。

建設業界は男性の職場というイメージが強いですが、女性でも活躍できますし、実績を残せば管理職として



職種を問わず女性社員が活躍しています

も登用していきます。現在、女性の管理職者は部門長を含め管理職者全体の約20%を占めています。今後も、男女ともに平等に活躍できる機会を設けるとともに、社内託児所を設けるなど、女性がより働きやすい職場を築いていきたいと考えています。

社員が生涯安心して働ける環境づくりのために

イガラシ綜業さんは、団体長期障害所得補償保険（GLTD）に加入されていたり、確定拠出年金（401K）に加入されていたり、資格取得することで手当が加算される制度を設けていたりすると聞いています。このように、福利厚生に力を入れるキッカケが何かあったのでしょうか？

社員が生涯安心して働ける環境なくして、会社の成長継続はありません。社員自身が充実した企業人生を送ることが会社の力になっていくと信じて「どこよりも手厚い福利厚生制度」を整えています。

GLTD 保険と401Kもそうした制度の一環として加入いたしました。GLTD 保険は、不慮の事故や病気などで長期体職を余儀なくされても、保険に入っていれば給与の60%が一生涯保証されて安心できます。また、長く活躍してくれた社員には老後も安心して暮らしてほしいとの願いから、退職金制度に加え掛金会社負担の401Kも導入しています。

資格手当については、頑張っている社員を応援したいという気持ちから始めました。資格を取ることで、社員個人の知識や手当も増えますし、会社としても受注できる工事の幅が増え、双方にとって非常に良いことだと思います。

また、「第二種電気工事士」は、電気工事関連企業に入社したら最初に取得する資格の一つとされています。主な事業として電気工事を担当当社でも、職種を問わずすべての社員にこの資格を取得してもらっています。資格取得により自社の事業について理解を深めることが、資格に基づく業務に直接携わらない事務系の業務でも役立つと考えているからです。

社員に癒しを与え 地域に開かれた新社屋

2016年に竣工した新社屋は、社員の快適性や地元との交流などに配慮した建物とのことですが、どのような特徴があるのでしょうか？

2016年に完成した新社屋は、スタイリッシュで開放感と清潔感のある働きやすい空間を意識して建設しました。女性社員向けにパウダールームを用意し、現場作業で疲れた社員のためにマッサージルームを設置す

新社屋外観





4階大会議室



子ども向け講習会の様子

るなど、社員にやさしい癒しの場を提供しています。

また、4階はフロア全体が大会議室となっており、200名が着座できる広いスペースがあります。駅から近いこともあり、地元の会合や地域交流の場として提供したりしています。

例えば、市内の小学校の父兄からの要望に応えるために、小学生を対象にしたCAD教室を毎月1回の年12回、ボランティアで開催しており、当社の女性社員が講師役を担っています。

地域社会に貢献し ともに成長していく会社でありたい

地域貢献活動にも積極的に取り組まれているそうですね。

具体的な地域貢献活動として、国営ひたち海浜公園で開催している日本を代表する音楽フェス「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」や日立市へのパンダ誘致の実現に向けたイベント「パンダフェス」の運営に関わっています。また、日立市のけやき通りの落ち葉を取

拾し、地域の方々の野菜づくりに役立ててもらうなど、資源のリサイクル活動、児童養護施設への寄贈、知的障害者のための「ふれあい蛍駅伝大会」の スポンサー および運営ボランティアなどに取り組んでいます。

今後も多くの会社と連携しながら、地域貢献活動に積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

創業 70 年を超えて、これからトータルエンジニア企業として、地域社会の発展にどのように寄与していこうとしているのかをお聞かせいただけますか？

当社の経営理念は「地域密着と礼節を重んじ、広く社会貢献に専念し、地域に愛される企業として成長していくこと」です。これは先代社長が考えたものであり、この姿勢はこれからも変わりません。本社がある日立市はもちろん、周辺の市町村の発展に寄与し、共に成長していくことが当社の使命であると考えています。



パンダフェス



「ふれあい蛍駅伝大会」にスポンサー・運営ボランティアとして参加